

# フードバンクネット西埼玉通信

2018. 9月号 VOL2

全国フードバンク推進協議会加盟団体



2016 年度 WAM 助成対象事業 2017 年度 2018 年度埼玉県シラコバト基金助成事業

暑い暑い夏がやっと落ち着いたと思ったら、大雨、台風、地震……と、日本中が今まで経験したことがないような大災害が次々と各地を襲っています。被害に遭われた方々が一日も早く「普通の生活」を取り戻されますようお祈りいたします。

最近では「10年に1度の…」 「今まで経験したことのない…」 「未曾有の…」 と表現されるような災害が頻発し、思わぬところで大きな被害が出ています。私たちが住む地域でもいつどんな災害が起こるかわかりません。今まで被害に遭ったことがない地域だから… という考えが通用しなくなっている昨今……日ごろの備えが大事ですね。

フードバンクは、いざというときの食料備蓄庫を兼ねています。またフードバンクの全国組織とのつながりもあるので、必要に応じて救援物資受入れの窓口として機能します。つまり、地域にフードバンクがあると「フードロス解消に寄与する」「困窮者支援のツールとして役立つ」、そして「万が一の備えとなる」と、いいことが3つもあるんです。素晴らしいでしょう？

皆さまに支えていただいている「NPO 法人フードバンクネット西埼玉」ですが、NPO 法人としてやっと最初の一年が終わり2年目に入りました。小さな活動ではありますが、おかげさまで継続することができており、地域での認知度も高まってきています。フードバンクをめぐるっては、県や国政レベルでも日々動きがあり、いろいろな意味で社会的な期待がぐんぐん高まっていることを感じます。私たちもせっかく多くの方に応援していただきながらここまでやってきたのですから、もう一踏ん張り二踏ん張り、有効な社会資源として持続可能な事業となるよう、最大限の努力を重ねて行きたいと思っています。

フードバンクはそもそも収益を生まない活動であり、公的な援助がない現在は「活動資金の確保」が最大の課題です。大口の寄付を集めやすくなるよう「認定NPO」を目指していますが、そのためにはしっかりと組織づくりが必要、そのためには人材が必要、人材を確保するためには資金が必要……と課題は尽きませんが、今年度は役員の顔ぶれも替わり、社会の信頼にしっかりと応える組織の基礎固めに力を入れて参ります。

引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2018年9月 代表理事兼事務局担当 黒田 和代

## NPO法人「フードバンクネット西埼玉」の理念



フードバンクのラビちゃん

★「優しさ」のフラットホーム

★「もったいない」を「ありがとうへ」

★いつでも食べるものがもらえる場所があること、

それは「生きる権利」を守ること

